

# ISSB公開草案の概要(5) S2基準案「戦略」

2022年5月

SSBJ設立準備委員会 事務局

- ❖ 2022年3月31日、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）は、設立後初めての公開草案を公表しました。（**コメント期限：2022年7月29日**）
- ❖ 本資料は、以下の公開草案に関して、**S2基準案のコア・コンテンツのうち、「戦略」**に関する開示要求をご説明することを目的としています。
  - ▶ ISSB公開草案  
「IFRS S1号『サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的要求事項』」  
（S1基準案）
  - ▶ ISSB公開草案「IFRS S2号『気候関連開示』」 （S2基準案）

2021年11月3日及び2022年3月31日にIFRS財団から公表された以下の資料をSSBJ設立準備委員会事務局が仮訳し、本資料に反映しています。

- General Requirements for Disclosure of Sustainability-related Financial Information Prototype
- Climate-related Disclosure Prototype
- [Draft] IFRS S1 General Requirements for Disclosure of Sustainability-related Financial Information
- [Draft] IFRS S2 Climate-related Disclosures
- Comparison [Draft] IFRS S1 General Requirements for Disclosure of Sustainability-related Financial Information and [draft] IFRS S2 Climate-related Disclosure with the Technical Readiness Working Group prototypes

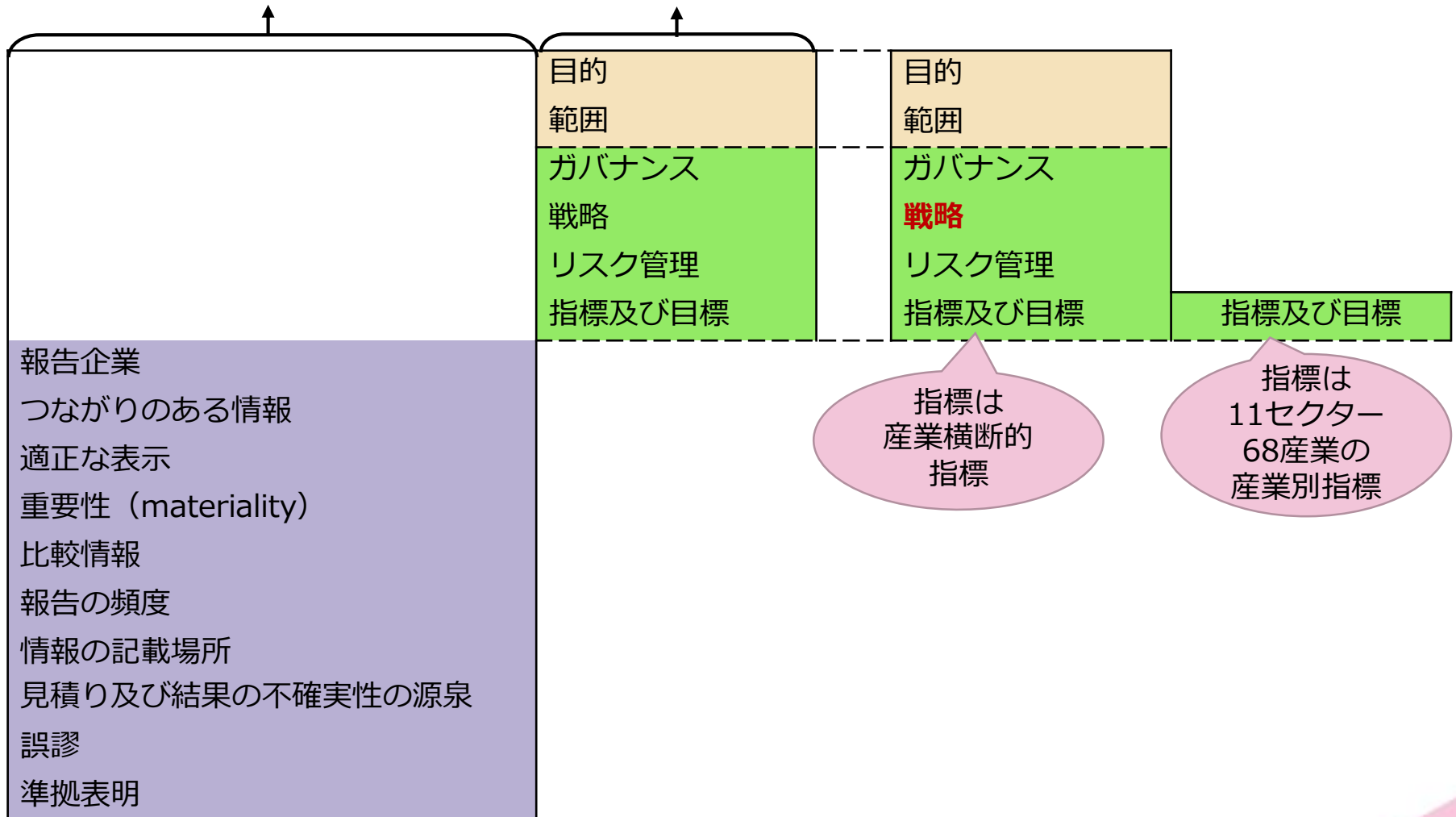
# S1基準案とS2基準案の関係

## S1基準案

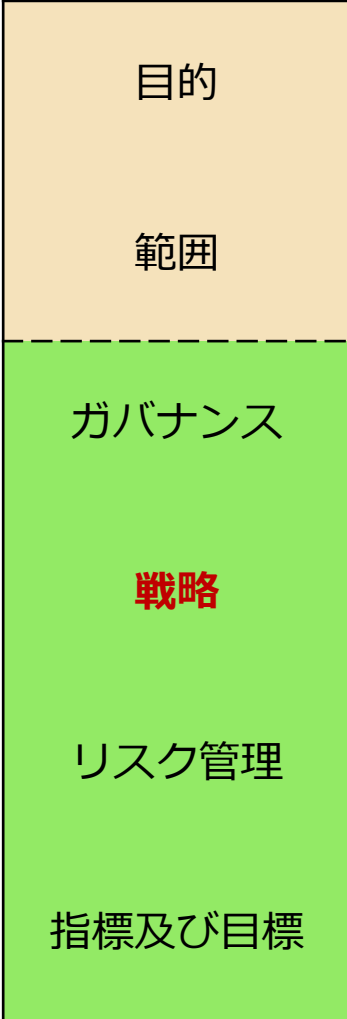
## S2基準案本文

## S2基準案付録B

- ① 開示の基本事項（全般的な特徴）  
② テンプレートとなる共通部分



## S2基準案本文



企業価値の評価に有用な重大な気候関連のリスクと機会に関する重要性がある情報の開示

- ❖ 次の事項に適用
  - 気候変動による物理的リスク（例：洪水リスクなど）
  - 低炭素経済への移行リスク（例：規制の変更など）
  - 企業が利用できる気候関連の機会（例：新技術など）

- ❖ TCFD提言との一貫性
- ❖ SASBスタンダードの気候関連産業別要求事項に基づく基準案

ガバナンス	戦略	リスク管理	指標及び目標
気候関連のリスク及び機会を監視・管理するためのガバナンスのプロセス、統制、手続	気候関連のリスク及び機会に対応するための戦略	気候関連のリスク及び機会を識別・評価・管理するためのプロセス	気候関連のリスク及び機会を測定・監視・管理するための方法

## 開示目的

一般目的財務報告の利用者が、重大な(significant)気候関連の**リスク及び機会**に対処する**企業の戦略**について理解できるようにする

### 1. 気候関連の リスク及び機会

物理的リスク  
(急性 vs 慢性)

移行リスク

機会

### 2. ビジネスモデル バリュー・チェーン

バリュー・  
チェーンにおけ  
るリスク及び機  
会の集中箇所

### 3. 戦略、意思決定

気候関連の目標達成  
のための計画

直接的な適応・緩和  
の取組み

バリュー・チェーン  
における間接的な適  
応・緩和の取組み

カーボン・オフセッ  
ト

### 4. 財政状態、財務業績 キャッシュ・フロー (現在及び将来)

財政状態・業績・  
キャッシュ・フロー  
への影響

企業の戦略に応じてど  
のように財政状態・財  
務業績が変化すると見  
込むか

単一の金額  
又は範囲

### 5. 気候レジリ エンス

気候レジリエン  
スをシナリオ分  
析を用いて評価

シナリオ分析が  
できない場合、  
代替的方法を使  
用

➡ **定量的な開示が必要**  
(開示できない場合は理由を開示)

## 開示要求

1. 気候関連のリスク及び機会が、**短期・中期・長期のビジネスモデル、戦略、キャッシュ・フロー、ファイナンスへのアクセス、資本コスト**に及ぼす影響
  - ❖ リスク及び機会、並びにそれぞれの時間軸
    - ➔ リスク及び機会の識別の際は、付録B「産業別開示要求」の開示トピックを参照
  - ❖ 短期・中期・長期の定義、**戦略計画の時間軸**と資本配分計画とのつながり
  - ❖ 識別されたリスクは、**物理的リスク、移行リスク**のどちらに該当するか
2. 気候関連のリスク及び機会が**ビジネスモデル**や**バリュー・チェーン**に与える影響
  - ❖ バリュー・チェーンに与える**現在の影響**及び**予想される影響**
  - ❖ バリュー・チェーンの**どこにリスクと機会が集中しているか**

## 開示要求（続き）

3. 気候関連のリスク及び機会が、**戦略及び意思決定（移行計画を含む）**に与える影響
- ❖ 気候関連のリスク及び機会への対応方法（**目標達成のための計画**を含む）
    - ▶ ビジネスモデルに対する現在の変更と予想される変更（直接的・間接的な適応・緩和の取組み等）
    - ▶ 計画に対する資源の供給方法
  - ❖ **目標に関する情報**
    - ▶ 目標の見直しのプロセス
    - ▶ バリュー・チェーンを通じて達成される**排出目標**
    - ▶ 排出目標の達成にあたり使用する**カーボン・オフセット**（種類、依拠する程度、**第三者による検証**や**認証スキーム**の有無など）
  - ❖ 前年度に開示した計画の進捗に関する定量的・定性的情報

## 開示要求（続き）

4. 気候関連のリスク及び機会が報告期間の**財政状態、財務業績、キャッシュ・フロー**に与える影響、**短期・中期・長期にわたり予想される影響**（財務計画にどのように含めたかを含む）

※不可能な場合を除き、**定量的情報**（単一の金額又は金額の範囲）を開示

- ❖ **直近**の財政状態、財務業績、キャッシュ・フローに与えた影響
- ❖ **翌年度**の資産・負債の帳簿価額に重要性がある修正が生じるリスクがある場合、識別したリスクと機会に関する情報
- ❖ 戦略により財政状態、財務業績のどのような**変化が見込まれるか**
- ❖ 上記開示事項について**定量的情報**を開示できない場合は、その**理由**



## 開示要求（続き）

5. 気候関連のリスクに対する**戦略**（ビジネスモデルを含む）の**気候レジリエンス**  
※不可能な場合を除き、**シナリオ分析**を用いる（不可能な場合は代替的な方法による）  
※定量的情報を提供する場合、単一の金額又は金額の範囲を開示

### ❖ 気候レジリエンスの**分析結果**

- ▶ 分析による**発見事項**、分析で考慮された**重大な不確実性**
- ▶ 短期・中期・長期にわたり戦略とビジネスモデルを調整・適応させる**能力**

### ❖ 気候レジリエンスの**分析方法**

- ▶ **シナリオ分析を用いた場合**、使用したシナリオ、時間軸、インプットなど
- ▶ **シナリオ分析を用いていない場合**、**代替的な方法**や技法、使用した仮定、時間軸、インプットなど、およびシナリオ分析を用いることができない**理由**

# S2基準案の概要 戦略 TCFD提言との比較

TCFD提言の推奨される開示	気候関連開示の公開草案 (S2基準案)
<p>重要性がある場合、気候関連のリスク及び機会が組織のビジネス、戦略及び財務計画に与える実際の及び潜在的な影響を開示する</p>	<p>重大な気候関連のリスク及び機会に対処する企業の戦略を理解する</p>
<p><b>推奨される開示 a)</b> 組織が識別した、短期、中期及び長期の気候関連のリスク及び機会について記述する</p>	<p>❖ 公開草案は、TCFDの推奨される開示a)及びb)と整合しているものの、リスク及び機会の影響の記述に関して、公開草案は、以下についての追加的でより詳細な情報を要求する</p>
<p><b>推奨される開示 b)</b> 気候関連のリスク及び機会が組織のビジネス、戦略及び財務計画に及ぼす影響について記述する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ビジネスモデル、戦略、資源配分、生産プロセス、製品、労働力の変更を含め、企業がリスク及び機会に対しどのように直接的に対応しているのか</li> <li>▶ 顧客及びサプライヤーとの協力を含め、企業がリスク及び機会に対しどのように間接的に対応しているのか</li> <li>▶ 企業の戦略及び計画は、どのように資源が供給されるのか</li> <li>▶ 投資計画及び資金源を含め、財政状態が時間の経過とともにどのように変化することを見込んでいるか</li> <li>▶ 財務業績が時間の経過とともにどのように変化することを見込んでいるか（売上及びコスト）</li> </ul>

# S2基準案の概要 戦略 TCFD提言との比較

TCFD提言の推奨される開示	気候関連開示の公開草案（S2基準案）
<p>重要性がある場合、気候関連のリスク及び機会が組織のビジネス、戦略及び財務計画に与える実際の及び潜在的な影響を開示する</p>	<p>重大な気候関連のリスク及び機会に対処する企業の戦略を理解する</p>
<p><b>推奨される開示 a)</b> 組織が識別した、短期、中期及び長期の気候関連のリスク及び機会について記述する</p>	<p>❖ 公開草案（第13項(b)）は、移行計画について少し異なるアプローチをとっている。移行計画は、企業の戦略の一部として参照されている。このため、戦略の開示要求の対象であり、排出目標及びカーボン・オフセットの使用の開示に関する明示的な要求事項がある</p>
<p><b>推奨される開示 b)</b> 気候関連のリスク及び機会が組織のビジネス、戦略及び財務計画に及ぼす影響について記述する</p>	
<p><b>推奨される開示 c)</b> 2℃以下シナリオを含む、さまざまな気候関連シナリオを考慮し、組織の戦略のレジリエンスについて記述する</p>	<p>❖ 公開草案は、以下に関するレジリエンスについて追加的でより詳細な情報を要求する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 戦略のレジリエンスにおける重大な不確実性の領域</li> <li>▶ 時間をかけて戦略を修正又は対応させる企業の能力</li> <li>▶ レジリエンス分析又はレジリエンス評価がどのように実施されたのかに関する詳細</li> </ul>

